

2章

問題

【1】

A.

全訳

地球の気候は、私たちがまだ完全に理解していない、微妙で複雑な方法で相互に作用し合う要素の組み合わせで決まる。その増加はこれまでの100世紀の間に起こったことがあるものより遙かに急速であるが、20世紀の間に観察された温暖化は、自然のさまざまな変化から生じたものかもしれない。その上、将来の状況を予測するために使われる超大型コンピュータによるシミュレーションは正確ではないかもしれない。

B.

全訳

ビクトリア時代の子供たちは、表面上はよくしつけられていたが、実はひどい怒りを抱えている場合がしばしばあった。そしてこれが10代後半に吹き出したものだった。当時の小説を読むとよく長男と父親、あるいは娘と母親の典型的ないさかいが出てきて、その典型的ないさかいが、息子や娘が家族のもとを去って長い間戻ってこないという結果になることもある。

C.

全訳

自然との関係において、昔の人間は弱く自然は強大で、人間がほとんど自然の奴隷になってしまうほどだった。したがって、人間が、両者の相互の立場が逆転するような未来、つまり人間が主人で自然が奴隷となるような時代を夢想したのも当然であった。

D.

全訳

①一般的な意見にもかかわらず、また学校での指導を考えるともっともなことなのかもしれないが、しろうとが数学を無視しようと決め込むのは間違いである。数学はテクニックの集まりではない。テクニックは実のところ、最も重要でない面であり、②色を混ぜ合わせることが絵画を表すには不十分であるのと同様に、テクニックは数学を表すには、はるかに不十分なのである。このテクニックとは、動機や推論や美そして意味を奪われた数学のことである。もし数学の本質をある程度理解すれば、現代生活や思想においてのその重要性を主張することは、大切だとわかるだろう。

【2】

解答例

小さな町の良さはそこに住む人間である。彼らはしばしば嘲笑の対象となるが、平均すれば大都市の人間と変わるところはない。小さな町を退屈に思う者は、自らが周囲の者を退屈

にさせているはずである。(93 字)

田舎町の良さはその住民である。彼らはお互いを良く知っているため気取る必要がないし、田舎町では住民が地域社会の一部であるという良さもある。田舎町が退屈なのは、その人自身が周囲を退屈にさせているのだ。(99 字)

解説

指針

論旨の展開は次の通り。

〔主題〕

小さな町の一番の良さはそこに住む人間である。

↓

〔主題のサポート〕

小さな町に住む人間は嘲笑の対象とされるが、敢えて言う。

〔根拠〕

何故なら小さな町に住む人間は、実際は嘲笑の対象にはならないからだ。

小さな町であれ大都市であれ、平均すればそこに住む人間に大差はない。

→しかし小さな町においてはお互いを知っているため、自分を偽る必要がない。

→人間にとって地域社会の必要不可欠な一部となることは心強い何かがある。

↓

〔結論〕

小さな町が退屈だと思うのは自分が人々を退屈にさせているからだ。

論旨の展開を踏まえつつ、字数以内にまとめるとよい。主題のサポート部分を上手にまとめないとすぐ字数オーバーになるので注意。

全訳

小さな町に関して一番良いことは、そこに住む人間である。私はこのことを敢えて言うのは、どれほど頻繁にその要素、住民の退屈さ、狭い半径の生活と関心事が嘲笑の対象としてとらえられているかを知っているからだ。重要な点は、そのような非難はまったく当たらないということである。そのような人間やそのような状況が小さな町には存在するが、それは同様に大都市にも存在する。というのも、人類の中にはあらゆる種類の人間があふれていて、彼らは平均すればどこでもほぼ同じになるからである。小さな町の居住者は、どこの人と比べても、少しも劣ることもなければ、また少しも優ることもない。しかし、小さな町においては、あなたは友人、隣人、知人として何十年、あるいは、多くの場合は生涯という長い年月に渡って彼らを知っており、また彼らもあなたの人柄を知っている——酔いを覚ますような、しかしまた勇気が湧いてくる考えである。小さな町においては、あなたは自分を偽る必要はない。あなたはありのままの自分でいられる。これはある者を悩ませるかも知れない。彼らは大都市の持つ無名性の方を好むのであろう。しかし、普通の人間にとって、地域社会の必要不可欠な一部となることの中には、何か心強いものがある。以下のことを確信すべきである。もしあなたが小さな町を退屈に思うなら、欠如はあなたの内にある。あなたは疑いなく周囲の人々を退屈にさせているはずである。

注

- ℓ. 1 ◇ boldly *adv.* < bold *adj.* = confident and brave; daring 「大胆な」
- ℓ. 2 ◇ that element 「the people who live in a small town を指す」
 ◇ seize upon ~ = take and use eagerly 「~の上に飛び付く；つかむ」
 ○ seize *vi.* = take hold of ~ 「~をつかむ」
 ◇ subject for ridicule 「嘲笑の的」
 ○ subject for ~ は「ある特定の感情もしくは行為を引き起こす人物もしくは物」→「~の対象」の意。
 ◇ ridicule *n.* < ridicule *vt.* = make fun of; laugh unkindly at
cf. ridiculous *adj.* = absurd
- ℓ. 3 ◇ charge *n.* = accusation 「非難；告発；問責」
 ○ charge ~ with ... = accuse ~ of ...
 ◇ simply *adv.* = completely; absolutely 《not を修飾》
- ℓ. 4 ◇ just as there are in large cities = just as there are such people and such conditions in large cities
- ℓ. 5 ◇ supply A with B = supply B to A 「A に B を与える；供給する」
 ◇ average *vt.* = be (something) as an average
- ℓ. 6 ◇ inhabitant *n.* 「住民」 < inhabit *vt.* = live in
 ◇ no worse (than) = almost as the same as; almost as good as ⇔ no better than
 = almost the same as; almost as bad as
- ℓ. 7 ◇ acquaintance *n.* = person one knows slightly 「知人；知り合い」
 ◇ over *prep.* = during
 ◇ span *n.* = length of time
- ℓ. 8 ◇ know ~ for ... = recognize ~ as ... 「~を...として知っている；理解する」
 ◇ what you are 「あなたの人柄；今のあなた」
 ◇ a sobering but an inspiring thought 「(自分のありのままの姿を他人に知られているという認識は) 酔いを覚まされるけど、勇気を鼓舞するような考え」《直訳》
 つまり、「楽しい気分から現実に戻されるような居心地の悪さを覚えさせるが、勇気が湧く考え」ということ。
 ○ sober *vt.* < sober *adj.* = not affected by alcohol
 ○ inspire *vt.* = encourage; stimulate; animate
- ℓ. 9 ◇ pretend *vi.* = make oneself appear to be something in order to deceive others (～のふりをする)
- ℓ. 10 ◇ annoy *vt.* = cause trouble or discomfort to; harass 「～をいらいらさせる」
 ◇ impersonality *n.* < impersonal *adj.* = not referring to any particular person (いかなる特定の個人にも言及しない)
- ℓ. 11 ◇ integral *adj.* = necessary to complete something; essential 「必須の」

【3】

ポイント

フリードマンの提案は資本主義経済の極限ともいえる。バウチャー制度やチャータースクールなどが難しいが、第3段落末尾がヒントになる。政府の介入を極力減らし、市場に任せるべしという自由放任（レッセ＝フェール）の考え方を捉えると理解しやすい。

解答

- (1) e
- (2) d
- (3) 「全訳」の下線部③参照。
- (4) ④ a ⑤ e
- (5) 公的資金を被災した公立学校を再建させるのに費やす代わりに、民営のチャータースクールの建設と助成に充てるような、災害を刺激的な市場の機会と捉える資本主義のこと。(79字)

解説

- (1) “Uncle Miltie” が主語, found が述語動詞, the strength to write an op-ed for *The Wall Street Journal* が目的語, three months after the levees broke が「時」を表す副詞語句である。found の直前に来る語句としては副詞であることが条件となる。この点で選択肢 b と d は除外できる。Ninety-three years old and in failing health というのは found the strength するには難しい状態であると考えられるから、「それにもかかわらず」の意である e nonetheless を選択する。
- (2) 「ニューオーリンズ州の公立学校を私立のチャータースクールに変えてしまおう」というのがフリードマンの提案の骨子である。教育の在り方が根底からくつがえってしまうのだから, d fundamentally である。
- (3)
 - ◇ Charter schools are deeply polarizing in the United States がこの文の主節である。
 - ◇ and nowhere (is) more (deeply polarizing) than in New Orleans と補って考える。「そしてニューオーリンズ以上に deeply polarizing なのはどこもない」
 - ◇ New Orleans, where they are seen by many African-American parents as a way of reversing the gains of the civil rights movement, 「ニューオーリンズというのは、多くのアフリカ系アメリカ人の親たちによって they = チャータースクールが公民権運動の成果をくつがえすやり方と見なされているところである」
 - ◇ the gains of the civil rights movement, which guaranteed all children the same standard of education 「公民権運動の成果とは、すべての子供に同じ水準の教育を保証するということである」
 これらの意味の各単位を日本語として不自然にならないように構成すること。
- (4) 空所④⑤を含む文に続く Within nineteen months, with most of the city's poor residents still in exile, New Orleans' public school system had been almost completely replaced by privately run charter schools. からわかることは、かなりの速さで着実に公立学校がチャータースクールに変えられてしまったということである。この事実をふまえ

れば⑤に e military speed をあて、それと鋭い対比を見せて復興作業は「遅々として、進んでいるのがはっきりわからない」のだから、④に a the glacial pace をあてる。

- (5) 下線部⑥を含む文の these orchestrated raids on the public sphere in the wake of catastrophic events, combined with the treatment of disasters as exciting market opportunities の部分を忠実に解釈・和訳し、そしてさらにカトリーナの被害とその復興過程でフリードマンが提案し実施されてしまったことを当てはめ、字数内でまとめる。

I call

S V

these orchestrated raids on the public sphere (in the wake of catastrophic events,)

O

↑

combined with the treatment of disasters as exciting market opportunities,

“disaster capitalism.”

C

全訳

ミルトン・フリードマンも、ニューオーリンズの洪水災害を好機と見た者の一人だった。彼は、一切の拘束なき資本主義推進の教祖的指導者で、現代の超流動的グローバル経済の教則本を書いた功績で名を知られる男だ。「ミルティーおじさん」という愛称で信奉者たちには知られていた彼は、93歳で、健康状態が悪化していたがそれにもかかわらず、ハリケーンで堤防が決壊した3か月後ウォールストリートジャーナル紙に、論評を書くだけ力は残っていた。フリードマンは論じた。「ニューオーリンズの大半の学校は廃墟となってしまった。そこに通っている子供たちの家々と同様に。子供たちは今や全米中に散らばってしまった。まさに悲劇である。しかし同時に教育システムを抜本的に改革する好機でもあるのだ。」

フリードマンの抜本的なアイデアとは、何十億ドルという再建費用の一部を、ニューオーリンズの既存の公立学校教育体制の再建と改善に費やす代わりに、政府は家庭に、バウチャー(利用券)を供給すべしというもので、家庭は州政府が助成金を出す営利目的の私立学校でそれを使うことができる。フリードマンによれば、この根底からの変革は一時しのぎのものであってはならず、「恒久的な改革」とすることが欠くことができないということだった。

一連の右派のシンクタンクはフリードマンの提案に飛びつき、ハリケーンの去った町に押しかけた。ブッシュ政権は、ニューオーリンズの学校を公的資金によって設立され、私企業によって各自固有の規則にのっとり運営される「チャータースクール」に変えるために、何千万ドルかを彼らの計画にあてがって援護した。③チャータースクールはアメリカで深刻な二極対立を生んでいる。それは特にニューオーリンズで顕著である。ここでは、多くのアフリカ系アメリカ人の親たちから、すべての子どもに同じ水準の教育を保証した公民権運動の成果をくつがえすものと見なされている。しかしながら、ミルトン・フリードマンにとって、公立教育システムという考え方そのものが社会主義の匂いがする忌わしきもののなのだ。彼の考えでは、政府の唯一の役割は「境界の外の敵と、内なる同胞の敵から自由を守ること、つまり法と秩序を維持し、私的契約を推し進め競争市場を育てること」である。換言すれば、警察と兵力を供給することであって、無償の教育をはじめとする他のいかなるものも市場へ

の不当な介入ということである。

堤防の補修や電力網の復旧が遅々として進まないことは正反対に、ニューオーリンズの学校制度の競売は軍隊並みの速度と精密さで行われた。1年7か月のうちに、大半の低所得の市民がいまだに避難生活を送っていたにもかかわらず、ニューオーリンズの公教育制度は、私立のチャータースクールにほとんど完全に取って代わられてしまった。ハリケーン・カトリナ以前には、学区内に123の公立校があったが、今や、わずか4校である。カトリナ以前には市内に7つのチャータースクールがあったが、今や31校である。ニューオーリンズの教師たちはその代表組織として、強力な組合を持っていたが、組合の契約は破棄され、すでに4700名の組合員教師の全員が解雇されてしまった。若い教師の一部はチャータースクールに、減額された給料であるものの、再雇用されたが、大半の教師は復職できなかった。

大惨事にすぐ続いて、災害処理をまたとない市場の好機として結びつけ、結集して公共の領域に襲撃をかけるこれらのやり方を、私は「大惨事に便乗する資本主義」と呼ぶ。

【4】

ポイント

形容詞節、つまり、関係節を用いた英作文に挑戦してみよう。

解答・解説

- (1) All that glitters is not gold.
ことわざとして著名。
- (2) The wind which blows from the sea feels wonderful.
feel の第2文型を利用すると簡潔に書ける。
- (3) Mozart is a composer whose fame is world-wide.
○ world-wide 「世界規模で」
- (4) The house where the artist was born was about to be bequeathed to the town, when the town council turned it down.
was about to *do*, when S V (…しようとしたとその時 S + V ~) を利用する。
- (5) Draw a right (-angle) triangle whose sides measure 1cm, 2cm, and Root 3cm [the square root of 3cm] .
○ 「辺」は英語で side と言う。cf. the three sides of a triangle
○ right triangle は正三角形ではなく直角三角形を意味することは覚えるべき。
cf. right angle (直角)
- (6) There used to be three strange-looking men who stood at the side of the road.
There is 構文を利用するとよい。
- (7) Fast food restaurants suit those who have to keep moving.
「席のあたたまる暇のない」→「絶えず動き回っている」と読み換える方がわかりやすい。
「おあつらえ向き」も「～に似合う；都合がよい」と読み換えて、解答例では suit を用いている。
- (8) Many beautiful parks are spoiled by empty cans and paper that people have thrown away.

- spoil 「～を台なしにする」
 - throw away 「～を捨てる」
- (9) The fire engine had trouble getting to the narrow street where the house was on fire.
- have trouble …ing 「…するのに苦労する」
 - on fire 「燃えている」
- (10) She lost her mother in the year that she graduated from the university.
- graduate from ～ 「～を卒業する」

【5】

ポイント

形容詞節とは関係詞 (who, which, that, when, where など) によって導かれる節で、文中の名詞・代名詞 (これらは先行詞と呼ばれる) を修飾するものを言う。ここでその基礎を確認していく。

解答・解説

- (1) as 「すべての年齢の子供に興味を与えるような本を書くのは難しい。」
先行詞に such があるので which ではなく as が入る。
- (2) where 「新しいスーパーの店内には実演販売が行われる食品コーナーもある。」
The new supermarket contains a food corner. + Sales demonstrations are held in it.
in it が関係副詞 where になる。
- (3) which 「これは、すべての子供に付与しなければならない権利のひとつだ。」
This is one of the rights. + Every child must be entitled to them.
to them が to which となる。いわゆる ‘前置詞 + 関係詞’ の形。
- (4) whom 「この金庫は許可を与えられた人のみが開けることができる。」
This safe can be opened only by those (people) . + Permission is given to them.
to them が to whom となる。(3) と違い先行詞は人であるため whom になる。
- (5) when 「私達が月に旅行できるような時がすぐに来るだろう。」
The time will soon come. + We can travel to the moon then.
then が関係副詞 when になる。

【6】

ポイント

【5】で見たように「形容詞節」とは「関係詞が導く従属節」なので、この設問は「関係詞を用いて1文にしない」というのと同義である。またその際には、どの英文を主節とすべきかを決定する内容把握力も必要となる。

解答・解説

- (1) Stephen is the boy who I think will succeed in life.
「ステイブンは、立身出世するだろうと思う少年だ。」
he → who にする。

- (2) The lady who came in your absence yesterday is now at the door.
「昨日あなたが不在のときに見えた女性が今玄関にいます。」
she → who にする。
- (3) What did you do with the ruffled cap which you used to wear?
「よく被っていたフリルの付いた帽子はどうしたんですか。」
全体としてまとめると疑問文になるので、後者を主節にして1文にする。which は that でもよいし、省略してもよい。
- (4) The man, whose wife is a Japanese, doesn't know Japanese at all.
「その男性は、奥さんが日本人なのに、日本語をまったく知らない。」
his wife → whose wife となる。
- (5) I lived in Kyoto for two years, during which time I visited almost all the temples.
「私は京都に2年住んでいましたが、その間にほとんどすべてのお寺を訪れた。」
during that time → during which time とする。この which は関係形容詞と言われる。
原則として非制限用法で用いられて and [but] + this [that ; the] の意味になる。
- (6) Christmas is the day when we celebrate the birth of Christ.
「クリスマスはキリストの生誕をお祝いする日だ。」
then を関係副詞 when にする。
- (7) Foods that you may eat every day which you actually don't like will digest poorly.
「毎日食べるかもしれない食品で、かつ、あなたが好きではない食品は、消化が悪いだろう。」
第3文に will digest があり「消化が悪いでしょう」と未来のことを表しているの、これを主節に設定するのが書きやすいだろう。すると、第1文の such foods と第2文の them が関係詞になって foods を修飾する。このように複数の関係詞節が接続詞を介さずにつながるものを（関係詞の）二重制限（二重限定）などと呼ぶ。二重制限では、初めの関係詞が省略されることがあるが、2番目（以降）の関係詞は省略しない。また、訳す際にも原則として前の関係詞節から訳していく。

【7】

ポイント

形容詞節と言っても、先行詞の後に漠然と置かれているわけではなく、元来あった英文の一部が関係詞として節の先頭に来ることで出来ている。それぞれの英文が、どのような接続関係になっているのかを考えながら解いていこう。

解答・解説

- (1) d 「その日は、始めは天気よかったが、最後にはひどい嵐となった。」
opened の主語になる関係代名詞 which を選ぶ。It opened brightly. という英文を考える。
- (2) c 「科学技術は、私たちの親の世代ですら信じられなかったであろう世界を作り上げたということを、私たちは皆気づいている。」
which は形容詞節内で、believe の目的語になっている。Even our parents could not have believed it possible. という英文を考える。

- (3) c「窒素は、人間の健康のために必要とする栄養分を人間に与えてくれる植物にとって、必要不可欠なものだ。」

which he needs for good health という形容詞節にすればよい。目的格の関係詞 which が省略されている。He needs them for good health. という英文を考える。

- (4) c「もし化石燃料を使い続ければ、大気中の二酸化炭素濃度は上昇し、地球を覆い尽くして地球を危険な状態にまで達するところまで行ってしまうだろう。」

It will blanket the earth and reach a dangerous level at the point. という英文から at which が答えになりそうだが選択肢にない。そのため at which を意味する関係副詞 where を選べばよい。

具体的な場所と言えなくても、point（点）とか case（場合）などのように広い意味で場所と考えられる語が先行詞に来るときには関係副詞 where が用いられる。